

令和5年1月16日 議会改革特別委員会 議事録  
10時35分 開会

○出席委員 (7人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、小中 真樹雄、小田上 尚典、北地 範久、日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 (1人)

委員 原田 孝徳

○傍聴者 (6人)

議員 末広 天佑、中川 智之、児玉 朋也、山崎 年一、細川 雅子、  
寺岡 公章

○網谷委員長 皆さんおはようございます。

改めまして、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

それでは日程に入らせていただきます。

日程第1、大竹市議会中継の実施に関する要綱に関する再度の協議ですが、サイドブックに掲載しています、新旧対照表、議会中継中止届の資料を見ていただきながら協議していただきたいと思ひます。

前回の委員会、特別委員会の議会中継要綱については、承認をいただいたところですが、その後、執行部へ確認したところ、訂正、修正がありました。

皆さんサイドブックを見ていただいたと思ひますが、要綱の変更・修正ということになりますと、3月の予算特別委員会での実行は時間的にも無理かなという気もいたしまして、皆さんいかがでしょうかね。

常任委員会は常時中継をしているので差し支えないと思ひますが、特別委員会はまだ中継を実施しておりませんので、仮にこれを変更ということになりますとなかなか難しくなるかと思ひますので、皆さん、何か御意見があれば。

日域委員。

○日域委員 私、不思議なんですけど、これ大竹市の条例ですよ。ここに何で地方自治法が入ってくるかですよ。地方自治法に基づいて大竹市議会が決めているわけですから、その大竹市が決めたことに対してこの要綱があるわけですよ。一々先祖まで返らなくても、大竹市議会がつくったルールが正しいのであるから、そこから書いたらいいわけですよ。長々書いたら、読むのに疲れるだけなんです。そういう必要は私はないと思ひますよ。誰ですか、こういうことを言うのは。

○網谷委員長 要するに、議会で決めたんだからそれでいいのではないかという、そういう意味合いですか。

○日域委員 いやいや、余分な、書く必要がないことまで書いて、読みにくくなるだけです。

ルール上必要ないと思います。そんなくだらんことをいっばい言って、ものすごく効率の悪い国になっている、日本が。

○網谷委員長 要らんことと言われても。

○日域委員 要らんことですから。

大竹市議会の中の細かなことを決めるわけですから、ルールにのっとってやったら、大竹市議会が法律にのっとってつくっているわけですから。そういうことでしょう。

○網谷委員長 要するに、この引用は要らないという、そういう意味ですか。

ほかに何か意見ございましたら。

北地委員。

○北地委員 これで全ての委員会を中継するということになるんですか。例えばこの前議論になった議会運営委員会とかはどうなるのかな。議会運営委員会は関係ないという話やっただしょう、この前。結局どうなるんですか。

議会運営委員会を入れたら全ての委員会になりますよね。

○網谷委員長 そういうことになります。

○北地委員 その辺、ちょっと確認したいんですけども。

○網谷委員長 局長、何かその辺のところ、詳しいところありますか。

局長。

○三上議会事務局長 議会運営委員会は常任委員会に含まれませんので、議会運営委員会を含めるということであれば条文に明記をしなければいけないかなと思います。

現在はコロナ対策ということで、議会運営委員会のユーチューブ中継というのは毎回行っております。

以上です。

○網谷委員長 議会運営委員会は中継されとるんですか、ユーチューブで。前回、コロナ対策で、庁内の中継だと聞いたんですが、そうではないんですね。

議会運営委員会に限ったことじゃないですが、ユーチューブにもアップされとるんですかね。ということは、この前聞いたニュアンスとちょっと変わってくるんじやが。

本題に戻りましょう。

先ほども申しましたように、中止の場合、委員長の判断が要って、それを書面にして議長に出すことになります。

常任委員会と予算・決算特別委員会は、皆さん中継に賛成されてますので、中継中止ということはなからうかと思いますが、そのときの委員長の判断にならうかと思いますが。問題は議会改革特別委員会、基地周辺対策特別委員会、広報広聴特別委員会の3つが、中継するには問題ないんですが、中止の場合、手間が1個入ることにならうかと思いますが。

これなら予定どおり、流れとしましては、議会運営委員会に諮って、3月の予算特別委員会から中継にならうかとは思いますが。

議長。

○賀屋議長 ありがとうございます。

今の要綱を修正する必要があるということで、今お示ししておる新旧の形になるんだと。分かりやすく言えば第3条に特別委員会を加えたということと、第7条に議会中継の中止というのを入れたということぐらいと思うんです。今までの議論で扱いについてこうしようという話があり、それを事務的に整理をする必要があるということなら、こういう形なのかなということだと思います。

先ほどから議論にあります特別委員会を入れて、その中には議会運営委員会は入ってませんので、従来どおり議会運営委員会は除くと。それと議会中継の中止について、第7条の項目を追加するというこの2つが主な改正と思うんですが、そのあたりを確認をしていただければと思うんですが、どうでしょうか。

○網谷委員長 今、議長が要約していただいたんですが、日域委員。

○日域委員 例えば、よく条文改正とかあるじゃないですか。点を打つとか打たんとか、「のっとり」を漢字にするとか平仮名にするとか、あんなつまらんことがいっぱい入ってきて、どれが今回の肝心なところなのか分からんようになるわけですよ。かと思えば、明治時代みたいな文語調の法律が今でもいっぱいあるわけですよ。分かりやすく必要最小限でいいわけですよ、文言というのは。

大竹市の本会議はちゃんと法や条例にのっとって定義してあるわけですから、憲法にのっとってつくられた大竹市議会って言う必要ないじゃないですか。

私、こんなのばかりな気がするんですよ。あんな仕事、やめようやって。そうしないとこの国はもうよみがえらないですよ。どうでもいい話ばかり、そして仕事をしたつもりでいるんですよ、日本中が。本当に私、最近あほらしくなるんですよ。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員の言われることも全くそのとおりのと思うんですが、そういう方向で日本の国が回るとるので、それはそれとしっかり聞いておきますので、よろしく願いいたします。

ほかになければ、今議長が言われましたとおりの、このままいかしていただければ、計画どおりの流れになろうかと思えます。これをまた一字でも変更ということになりますと、手続が最初からになりますので、せっかく長い時間委員会で協議したんで、無駄ではなかったとは思いますがね。

北地委員。

○北地委員 中止の場合の条件なんですけれども、ざっくりは書いてあるんですけれども、不測の事態とか事故等、この「等」ですよ。このあたりは、何か具体的に。

○網谷委員長 中止する場合に、何が起きても文章的には通るといようなやり方になったのかと思います。例えば災害が起きるとか停電になるとか、ここだけの停電になるとか、私はそう解釈しとるんですが。

局長。

○三上議会事務局長 第7条の議会中継の中止というのは、不測の事態に限った話です。第3条第2号で、その他議長が議会中継を行うことが適当でないときというのが、中継を行わないという理由になります。第7条はあくまでも不測の事態等、災害でできな

いであるとか、以前よくあったんですが、Wi-Fiの調子が悪くて中継ができないといった場合になります。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 第7条のところで、議長はってあるんですけど、委員会とか常任委員会も特別委員会も委員長が仕切ってると思うんですけど、何かあったときは、これ委員長って読み替えてもいいやつなのか、読み替えちゃ駄目なやつなのかっていうのが、ちょっとよく分からないですね。

常に議長がいないと中止できないっていうのもおかしいかなと。ここに書きちゃうと、議長いなければ中止できないということになるのかなと。そこだけお願いします。

○網谷委員長 私の解釈では、議長が判断する場合と、不測の事態で判断する場合という2通りに読み取れるんですが、それで局長、よろしいんですかね。

局長。

○三上議会事務局長 すみません、このデータが修正前のもののように、第7条の議長はのところが、議長または委員長がと今時点でなっております。

委員長が、災害とかの場合じゃなくて通常の委員会で放送にふさわしくないという場合は別途様式がありますので、議長に提出し、議長が決定するという流れになります。

以上です。

○網谷委員長 議長の場合は、もう初めの要綱の中にも盛り込まれておりますので、条文が1条増えたということと、不測の事態という意味で。

ちょっと申し遅れましたが、今日は原田委員は体調不良のため休みとさせていただきますので、途中、すみません。

○賀屋議長 第7条は、議長または委員長というのが入るんでしょう。

○網谷委員長 両方入るということです。

これ、1条入りまして、その後が1個ずつ条ずれになりますので、皆さん、よければ。日域委員。

○日域委員 これ要綱ですよ。要綱を決めるってこんなに面倒くさいのかなと思いますけれども。いろいろ言いましたけど、それは議長と委員長がいて、片方がやろうと言って、片方がやめようと言ったらどうするんやになるわけですから、議長が決めたら私はいいいと思います。そんなのはその現場の判断ですし、そもそもこれ記録じゃないって最後書いてあるわけですから、本来大した意味はないわけですよ。だから気楽にやったらいいんじゃないかと思いますけどね。

○網谷委員長 だから承認させていただけますかね。

○日域委員 いいですよ、もちろん。

○網谷委員長 皆さんいろいろ意見が出尽くしたということで、承認でよろしいですか。

局長。

○三上議会事務局長 先ほど確認がありました議会運営委員会なんですけれども、議会運営

委員会はこの中に規定しなくてもいいですか。

どっちが先になるのかですけど、常任委員会、議会運営委員会及び特別委員会と追加をしなくてもよろしいのでしょうか。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 入れたほうがいいと思います。

○網谷委員長 そうですね。これを入れることによってまた審査を受けるわけですよ。

私が懸念しとるのが、3月の予算特別委員会に間に合えばと思いますので。皆さん入れたほうがよろしいということなので、議会運営委員会も、入れるということにさせていただきますかね。委員会全部が網羅されるということになります。

議長。

○賀屋議長 そうすると、常任委員会及び議会運営委員会及び特別委員会と3つ言わんでも、本会議及び全ての委員会という表現で整理できるんじゃないかと思えますけれども。

○網谷委員長 常任委員会も特別委員会も、入れる必要はないと。

それでよければ文面も多少短こうなるんですが。その辺のところは事務局に一任しますか。

小田上委員。

○小田上委員 最初、日域委員が疑問に思われたところと通ずるものがあるのかなと思うんですけども、そこをまとめていいんだったら全部まとめればいいと思うんですね。

要綱と要領といろいろありますけど、これからつくっていくものはこうやるんだっていうことであれば、省略しないほうがいいんじゃないんですか。なので議会運営委員会っていう文言を追加するだけでいいんじゃないですか。

○網谷委員長 議会運営委員会を。

ただ議長が言われたんだったら、また全体的に文面が短くなるんじゃないかということ。

○小田上委員 その省略がオーケーならほかのところもどんどん省略できるのがありますよねっていう話になりそうなので、一つ加えるほうがいいかなと。

○網谷委員長 分かりました。

今、小田上委員の意見と議長の意見が、2つ出たんですけども、基本的には文言を加えるほうが分かりやすいので、文言を加えるようにと思いますが、よろしく願いいたします。

流れとしましては2月の議会運営委員会に諮り、3月の予算特別委員会からは実行できると思いますので、よろしく願いいたします。

それではよろしいですかね、この日程第1は。

小田上委員。

○小田上委員 要綱の中身の話はできたんですけど、中継しないときの届出の案を出していただいて、これ特に皆さんからなければ、このままで行くっていうことでもいいんですかね。案を出していただいているので。

○網谷委員長 こちらの中止の場合の議長宛てに出す文面は、これでよろしいですかね。委

員会委員長と特別委員会委員長の2通りの案がありますが、これでよければ。これがもう一つ要るんか、議会運営委員会、議会運営委員長の。

○小田上委員 議会運営委員会は大丈夫だと思います。委員会委員長は。

○網谷委員長 行けるんか。

ということで、中継中止の場合の届出は、これでよろしいですかね。

よろしければ、こちら承認いただきました。よろしくお願いします。

それでは日程2に入らせていただきます。

議会改革特別委員会の今までの検証、それから議員の成り手不足の解消、なかなか難しい問題ではございますが、意見があれば、よろしくお願いいたします。

この前新聞かテレビ報道かに、どこかの町村議会だったか、立候補者がゼロじゃというところがありましたね。

○日域委員 補欠でしたよね。

○網谷委員長 補欠だったですかいね、あれは。

大竹市はそこまで行かないと思いますが。私は定数問題に関しまして、現状維持に決めていただいたんですが、定数に足らなかった場合がちょっと怖いというか、懸念があるのはあるんです。前は定数ちょうどで無投票になったということなんですが、その定数に足らなかった場合は、私は定数削減に即、踏み込みにゃいけないかというような気もするんです。定数に達する限りは有権者、立候補者の考え方もあろうかと思いますが、何か意見があれば。

小田上委員。

○小田上委員 この議会改革特別委員会のメンバーで実際、本会議まで通りまして、今回の選挙は定数16の維持で決まっている。ただ本当にこの16が適切な数字なのかっていうところはまだ結論が、正直なところ出てないかなと。どういうときが来たら定数を見直すべきなのかっていうところは。定数の話をしているときから言っていましたけど、仕事の内容だったり、議員の仕事の作業の確認、棚卸しみたいなものやってみるとか。次の選挙まで丸4年半ぐらいあるわけですから、そこを考えていくのも一つかなっていうのと、市民と議会の関係をもっと濃いものにしたっていうところで、前期の議会改革特別委員会ですてました議会のモニター制度とか。広報広聴特別委員会で、広報の紙面で意見を募るという話は進んでいます。議会全体の取組として、何か市民の方ともっとつながりが持てるところを考えていくのがこの議会改革特別委員会なのかなと、広報広聴特別委員会の中でもそういう声が上がったりもしましたので、そういうところに取り組んでいくのは大切なんじゃないかなと思います。

○網谷委員長 そうですよ。

これは思ったことを言っただけであれば、それが参考になるんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうかね。

年始の中国新聞のアンケートの中で、やっぱり報酬が足りないという意見が一番多かったですね。その次が年金問題。

大竹市の場合は報酬月額37万円で、そんなに低いことはない気もするんですが、今一番

広島県で低いのが北広島町で、20万円だったですかね。それは上から見たらきりがなく、難しいところではあるんですが。

小中委員。

○小中委員 一般の人からも、議会をこうしたほうがいいんじゃないかっちゅうのを聞いたこともあるんです。

平日で傍聴しようと思っても来られない人もいて、多くの人に傍聴してもらうように、例えば土曜、日曜も議会を開くことができるかできないかっていうのも一つの案としてはあるわけです。一遍そういうことができればやってみるのも一つの方法ではないかなという感じはするんですがね。ただ、それは手続とか、いろいろ方法までちゃんとどんだけ多くの人の理解が得られるかもあるんだけど、そういう手もあるという提案、声を私は聞いております。

○網谷委員長 それは全国的によく言われておりますよね。

何かその理由づけが、土日にすると手当が必要になったり、夜間にやればやっただで時間外手当とかいろいろな問題が出てくるんじゃないかと、何かの話の中で聞いたことがある気がするんです。

日域委員。

○日域委員 実際、分かりやすい議会と言うけれども、いろんなことが大竹市の中で簡単に決められるもんじゃなくて、いろんなものが絡み合っているわけですね。だから何で大竹市はあんなことするんやって言うても、そのほうが大竹市にとって有利なんだっていうことを言おうと思ったら、いろんなことまで話を広げていかないと、説明ができない。だから議会傍聴に来て、賛成、反対で誰が反対するか分かるけど、議案があっても、議案の向こうにあるものが見えないわけですよ、行政に関係してない人にはね。

もちろん夜間にしたらそれは職員さんの勤務形態のこともありますから難しいですけども。とにかく大竹市のことをみんなで決めるにはどうしようかっていう形ができていけばいいけれども、一々全部国が絡んで、県が絡んでやっとなるわけですよ。それだけじゃなくて、いろんな絡みがあるじゃないですか。そう言うのはみやすいけれども、実際は無理ですよ。

それで我々だって分からんことが山ほどあるのに、一般の市民の方はよっぽどその世界に精通している方でない限り、なかなか来てもらっても本当の理解は得られないような気がします、残念ながらですね。だから今でしょうがないんじゃないかと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

大竹市も、何年か前に子ども議会がありましたよね。そういうのも検証はしてないんだらうとは思いますが。なかなかそれをするためにも学校の中での調整、もちろん議会の中でも調整が要るし、いろんなものが絡んでくるので、難しいのではないかなという気もせんこともないと思います。

北地委員。

○北地委員 一応いろんな話が今出ては来よるんですけど、個別案件として。令和3年の10月20日に委員長案ということで、活動計画を出されておるわけなんですけれども、これら

の整理がまだ全然ついてないと思うんです。当面は定数について話をしよう、その他の問題についてはそれを解決してから協議しましょうよっていう話にはなって、15項目ぐらいあるんですけども、決定されたものもありますけれども、それらの整理というのは今後どうしていくのかなと。それを個別にやっつけていけばええんかなとは思いますが。

○網谷委員長 そういう方向で一応、新たに今までの検証というふうにレジメにも書いておるつもりなんです。

○北地委員 だったらこれ、どのように進めていくのかなと。

○網谷委員長 私の感覚では、例えばSNS、テレビ中継、決算特別委員会の議会提案とか、その都度皆さんに問題提起していただいて、そこでまた協議すればと思ってるんですが、皆さんから出てきませんので、どうなんかなと私自身思っているんです。

北地委員。

○北地委員 順番はどうあれ、この中からテーマを選んで議論していけばいいのかなと思うんですけども。

○網谷委員長 そうなんですよ。

○北地委員 だからそういうやり方なんですか、委員長の思いとしては。

○網谷委員長 今4つ試行しておりますよね。それ以外にもあればという問題の投げかけは前からしとるつもりなんです、その辺のところは委員の皆さんと行き違いになつとるのかなというような気もします。

1番が議会モニター制度ですね。これと議長主導のSNS発信、それから予算・決算特別委員会の議会提案、それから自由討議の4つで一応実行というんですか、試行の段階ですか。そのほかにあればという意味合いで新たな課題と私は定義づけとるんですが。協議することがあれば、皆さんの意見も聞き。

小田上委員。

○小田上委員 この15項目上がっている中で、これがってところが難しいのであれば、僕はモニター制度とか例えば本会議の質問の5回の廃止とかはちょっとやってみたいと思うところはあつたりします。

なので、実際に全部の項目、ある程度話し合ってみて、これだったら取り組めそうっていう方向を今月、来月で決めていくっていうのも一つなのかなと、話を聞いていて思いました。一通りどうだろうかという、1項目ずつやってみるっていうのも一つの手かなと思えます。

○網谷委員長 どうもありがとうございました。

今議員の成り手不足を協議しとるんですが、議員の成り手不足はこの辺でよろしいですか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、議員の成り手不足を解消するためにこの取組をしていくんだと思うので、別に成り手不足のまま、定数の話は置いとくなら置いとくで、それ以外の項目をやっていく方法でもいいのかなと。

○網谷委員長 要するに成り手不足は、この15項目が全部原因として入るという意味なんで



すね。分かりました。

この15項目を順番に見ていきますと、なかなかすぐに決まるような問題でない気もするし、取り上げてどうなのかなとも考えながら、この2年近くになるんです。

今までやっている検証は今でも続いとるんですが、これからも今の4項目は続けていこうと思うとります。自由討議もこれまで実行されておられませんので、どうなのかなと思います。

1つ目、議会モニター制度。市民の方向何人かに候補になっていただくような感じですかね。

北地委員。

○北地委員 このモニター制度というのは今、広報広聴特別委員会で取り組んでいただいていると思うんですが、広報広聴特別委員長からその辺の流れを説明してもらえればと思うんですけども。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 広報広聴特別委員会では、議会だよりモニターというアンケートをこの2月号から始めます。アンケートっていう形に最終的になったんですけど、一番最初は議会だよりモニターでいろいろ考えてたんですが、議会だよりのモニターだけに絞るのは難しいとか、予算面とかっていうところもあって、まずはアンケートの取組としました。

広報広聴特別委員会から議会全体のモニター制度について触れるのは、ちょっと違うんじゃないかなという意見もありましたし、広報広聴特別委員会でやるには難しい側面もあって、議会の運営とか全体に関わることなので、例えば議会運営委員会だったり議会改革特別委員会でやってもらうのが妥当なんじゃないかというような声もありました。

モニター制度に関しては、何人かモニターとして委嘱をして、やっていくっていう方法もあると思いますし、無差別で抽出してお願いするっていう方法もあると思います。広報広聴特別委員会ではアンケートという形で、今終わっているところです。

○網谷委員長 ということですが、ほかに皆さんの意見があれば。

これは議会改革特別委員会でも進めていただければという意味合いですか。

皆さん、どう思われますかね。

日域委員。

○日域委員 さっきの自由討議だとかいろんなことがあるんですけども、大竹市を二分するようなことはあまり、実際ないじゃないですか。

だから討議する中身がないんですけども。私の記憶で言うと、今のゆめマートがありますよね。あそこをどうする、こうするというときに、議会が二つに割れて、二つに割れてというか、皆さんがどっちがいいか自信がなくて、本当に傍聴者がいっぱい来て、立ったり座ったりして、中には中腰だった人がいますけど、中腰だったら立ったほうにカウントされたみたいですけどもね。

もっと言えば、平成10年頃の大願寺開発計画ですよ。ある人は、あんなことやったら大竹市が破綻すると。でも同じ同僚で真剣に考えて、あれやらなかったら大竹市の将来がなくなると。本当にどっちもどっちで、どこまで詰めても答えが出ませんよね、分からん

わけですから。

それで当然やったんですけれども、そういうときにはそれこそ二つに分かれて、ああだこうだってあると思いますけれども、実際今我々がやっているのは手続ですよ。議会を通さなくちゃいけないから通すと、それで一応の質問をすることによって大体見えてくるじゃないですか。それで、まあこんなもんよねって言って、ほとんど議案は通りますよね。その手続をしているだけだから、ある意味、側から見たら面白くないのと、全部議案通るんじゃないって。でも世の中そんなもんですよ。

だから成り手不足とかいうんじゃないで、今、選挙に出ようという覇気のあるやつがいなくなっているんですよ。これは根っこを追いかけていったら、少子化と一緒にですよ。少子化問題の的を射たような政策が出てきませんよね。今、日本の活力がないことのたった一つの現象に過ぎないんですよ。だからそこを何とかしないと、定数を減らしても、じゃあどんどん来るかって、そうはならない気がします。私は定数削減と言った側なので、今ちょっと矛盾したことを言ってますけれども、だからなかなか難しいです。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今の成り手不足の根本的な、立候補者の覇気がないというような問題もあるということ。それはそれとして、モニター制度についてはどうでしょうかね。一応小田上委員から投げかけられとるんですが。

どうぞ。

○日域委員 広報広聴特別委員会で私がモニター制度を担当してやっているんですけどよね。

やり方はいろいろあって面白いと思いますけれども、要らんこと言わせてもらうと、無作為抽出でモニターを決めたいと思ったんですよ。そしたら執行部に情報を出せないと言われたんですよ。議会は執行部じゃないって。

どこにそんな理屈があるんか知りませんが、アンケートなりモニターしてもらうというのは、やっぱり来てくれるものであればいいと思いますよ。それはいろんなところでやったらいいと思います。

市民で傍聴に来る方もいますけど、正直言って、私、来たことないですからね。よっぽど利害関係とか陳情とかすりゃ別ですけども、普通は来ないじゃないですか。それで来たらいいのかって、満員御礼だったら大入り袋が出たりする世界でもないですから、傍聴、傍聴というのも問題ですけども、難しいですね、その辺の頃合いとかさじ加減がね。

でもモニターをやってみること自体は一つ、いいことかもしれません。そのモニターの人の言ってくれたことをちゃんと受け入れる度量があればですよ。何を言うか分かりませんよ、モニターの人。それはそれでちゃんと受け入れる準備をしとかなないといけないと思います。

以上です。

○網谷委員長 議会モニター制度というと、ちょっと私、よく分かんのですがね。広報広聴特別委員会の、今の議会だよりの在り方について意見を求めるというような考え方になるんですかね。

小田上委員。

○小田上委員 広報広聴特別委員会でモニターを行う際、一番のハードルになった部分に費用面がありました。あとは広報広聴特別委員会という立場から議会のモニターをやったときに、意見を聴くという広聴の意味でできなくはないんですが、議会運営そのものの仕組みとか全体に関わることを広報広聴特別委員会がやっていいのかと。議会のモニター制度というものになれば、多岐にわたるので。議会改革特別委員会、議会運営委員会、それぞれの常任委員会についても考えていただく、本会議場でもってというモニターの仕方であると思うんです。

なので、そういうところを踏まえたら広報広聴特別委員会では難しいんじゃないかと。議会全体に関わることとしての取組は、議会改革特別委員会のできるのかなと。やり方はいろいろあると思います。こういうやり方が正解っていうのはないと思いますので、もしやったほうがいいのかという話になった場合は、こういうやり方があるんじゃないかという意見を、私も出しながら、皆さんからも出しながら行けたらいいのかなと思いました。

こうしたほうがいいのかというのではなくて、市民と議会の関係が、いろんなところで持てたらいよいよねという思いで、モニター制度どうでしょうと言っただけです。

○網谷委員長 費用面ということでどれくらいかかって、どうなのかなとか、その辺のところ分かったら教えてください。

小田上委員。

○小田上委員 100名分を無作為抽出して情報をもらうときに、1件200円だったので、200円掛ける100名分かかるということで、じゃあそのお金はどこから出すのかとかあって難しかったと。なので無作為抽出をしようと広報広聴特別委員会で考えたときに、そこが一個ハードルでできなかったところはあります。

○網谷委員長 費用面は100名分掛ける200円で、2万円ぐらいですか。そんなに費用面で苦しむことはないと思うんですがね。

ただ、これはやっていただく方がいないと決められませんので、皆さんがわあわあ言っても仕方ないんで、そういうところがなかなか手間がかかりそうとは思いますが、どうですかね。

小中委員。

○小中委員 議会だよりのモニターと議会モニターって、本質的に違うと思うんですよ。議会モニターっていうのは議会全体で、大竹市議会を見ていて、大竹市議会の問題点を摘出していただかないといけないわけですよ。いいことを言う人は要らないわけですよ。これはあかんでちゅうところを言ってもらうのがモニターの存在意義なんであって、そんなよいしょするような人は、はっきり言って要らないわけですよ。

それで、何を選ぶかって、誰が選ぶかっていうのも問題やけど、費用面問題、実は200円とかそういう問題じゃないと思うんですよ。1年なり半年なり、任期とかもあるだろうし、それはそれなりの謝礼を払わんとやってくれる人はいないと思いますよ。ただでやられて言われて、じゃあやりますっていう人はそんなにいないと思うんですよ。

○網谷委員長 賛同者ばかりというわけにはいかんと思いますけど、一応無差別ということ

になろうかと思うのでね。

小田上委員。

○小田上委員 議会モニター制度どうですかって提案させてもらって、今こういう話ができているのはすごくありがたいんですが、突然議会モニター制度の話が始まったと思うんですね。例えばですけどモニター制度、今話を聞く限り、完全に否定的な感じではないと思うので、これも今後案を出す一つとして、ほかにもあと残り10項目あるじゃないですか。モニターについて今ずっと話してても、あまり深くない状態で話しても進みにくいのかなと思ったんで、ほかのものでも今後検討していくかどうかだけ決めて、また優先順位を決めてのほうが深くなるかなとは思いました。

○網谷委員長 要するに今、モニターというのが提言されましたので、議論してましたが、先に15項目ある中で抜粋して行って、これからの委員会の中で取り上げたほうがいいんじゃないかというようなので、それでよろしいですかね、皆さん。

藤川委員。

○藤川委員 またちょっと次になりそうだったので、ちょっと私の今聞きよった意見だけ言わせていただこうと思ひまして。

議会モニターは、皆さん懸念材料は一緒だと思うんですけど、成り手不足だと思うんですよ。どこの地域に行っても全ての団体、成り手不足ですよ。

市民の議会モニター抽せんするのはいいんですよ。議会モニター、基本的には賛成です。ですけど無作為に市民の方がなって、それが負担になるんだったらどうなのかなという懸念もあります。

例えば私が一般市民で、市から手紙が来て、あなた議会モニターですよ、今月から、やってくださいって、やりたくないですよ。そういう方もたくさんいるだろうと私は思っています。議会モニターは結局、本会議場なり委員会なり来てもらわないと、まず話になりませんよね。そういうのも懸念材料の一つになってくるだろうなど。

それで今度2月に、議会報告会ありますよね。アンケート配るので、アンケートの一文にでも、議会モニター制度のことについて御意見を。せっかく、興味のある方が来られると思うんで、その方のアンケートを聴くのも一つの手なのかなと感じました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

なかなかいろんな意見が出て、難しい面もこうして意見を突き合えれば出てくるのだなと感じております。これはすぐ結論を出すというわけにはいかないと思いますので、議会モニターは一応、今日はこれくらいにして、次に何かこれは取り上げていったらええなというところがあれば。

議長。

○賀屋議長 この3番目の子ども議会というのは、以前やってみたいなんですけれども、どういう成果が上がったとかその辺の報告、反省会みたいなのも確認したいなんですけれども。対象をどの子供にするかによるんですけれども、例えば高校生ぐらいを対象に子ども議会をやれば、こちらも勉強になるような中身もあるんじゃないかとも思いますし、保護者も、

うちの子どもが子ども議会で議員として議場に入るということであれば、非常に議会に対する関心も深まってくるだろうと思うんです。

当然、保護者だけでなしに知人、あるいは親戚ですね。この大竹市議会はこの活動をしているんだということについて周知をしていただければ、今後議会に対する認識も変わってくるのではないかなと思うんです。非常に取り組みやすい内容になるんじゃないかと思ひまして、その辺りを進めれば、一つの意見としてですけれども、どうでしょうか。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 高校生っていう発想は頭になかったの、それはそれで面白いなと。面白いというか新しいなと思いますけど、普通は小学生ぐらいを呼んでお茶を濁しているわけですよ。テレビなんかで時々よそのを見ますけど、市長がいいかげんな答弁して言いくるめているだけで。

私いつも思うのは、この社会っていうのはリーダーがいないんですよ。選挙で決めるんです。学校というのは担任がいるんです、強制的に。先生がいて、先生の支配下ですから、私が子供の頃、時々何かの事情で先生のいない日があって、大騒ぎでしたよね。だからこの社会は、天から与えられた権限のある人はいないんですよ。皆さんが選挙っていうルールでリーダーを決めるんです。

学校というのは子供が騒いでも、もう自動的にトップがいて、先生が静かにせえってやるわけですよ。だから皆さん民主主義で一生懸命決めてやっているんですよ。そこを言わずに、あそこに座って質問して、市長が答弁するっていう表面づらだけやっても、何の役にも立ちません。

それよりかこの前、二十歳のつどいって一斉にやりましたよね。私、あればかみたいと思うんですよ。私も教育委員会に聞きましたよ、何で二十歳なんやって。昔だったら二十歳が成人ですよ。二十歳になったら選挙権もあるし、馬券も買えるし、酒も飲めるし、たばこも吸えるし、そういうことをもって、じゃあ今日から大人なんだって自覚があったわけですよ。今成人が18歳になって、何もないんですよ。選挙権だけありますけれども。たばこは吸うな、酒は飲むな。そんなのは二十歳なんですよ。それで18歳で、もうあんたら成人じゃけんねとって、全くちぐはぐなことを日本中でやっているんですよ。自覚が生じるわけがない。

だからあの辺の子供か大人かのことについても、ちゃんとやっていかないと、もうこんなピンぼけな国はないですよ。本当におかしな話だと思いますけどね。だから子供が本当に自立するっていうか、そういう気持ちを醸成するような行事ならぜひやりたいと、やったらいいと思います。格好だけの子ども議会はやめて、そこで何かの権限を与えてやったら面白いかもしれませんけどね。

○網谷委員長 ありがとうございます。

皆さんにお聞きするんですが、こうして話し合えば話し合うほど、いろんな話が出ますよね。それで、結論を出して進めるのか、協議をしながら皆さんに知識を深めていただいて、次回の選挙後、次の議会に委ねてこれをつけていくのか、どういうふうな方法がよろ

しいかと思えます。

今期中にやらないやいけんという方がおられれば、急がねばならないということもござい  
ますので。皆さんの意見を聴けば、今15項目あるんですが、恐らくまだ6つやそこらは出  
てくるんじゃないかと思うんですが、どうでしょうかね。

小田上委員。

○小田上委員 何もしないという手はないので、この中でどれか1つなり2つなりを、実施  
までは行かないかもしれませんが、ある程度こういう方向性を持って、次の改革がある  
かどうかですけど、こういう思いを持っているというところまでは、1つ、2つだったら  
行けるのかなと思うので、何かに絞って取り組んでもいいのかなとは思いますが。そこまで  
急ぐ必要はないかもしれませんが。

○網谷委員長 今、小田上委員が言われたように、絞ってやるほうが具体的にはなろうかと。  
具体的の濃度は高くなるかと思えますよね。今は議会モニターと、議長が言われた子ど  
も議会、その2つが今出とるんですがね。どうなんですかね。

藤川委員。

○藤川委員 子ども議会、十数年前に1度だけやったことがあるって今聞いたんですが、も  
しよかったんなら続いていると思うんですよ、年に1回でも2年に1回でも。なくなっ  
た理由というのがもしあるんだったら。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 終わったというより、1回だけやったという感じだったような気がするんです  
がね。まさか私の記憶違いというか、もともと全部やったこともなかったりしたら申し訳  
ないんですが、おぼろに記憶があるんですけれども。ある議員とそのときに議論というか、  
個人的にですけどね。反対、賛成でごちよごちよ言った記憶があるので多分やっていると思  
いますけど。

○網谷委員長 やつとるのは私も記憶があるんですがね。ただ藤川委員が言われとるのは、  
あれからもうありませんので、なぜないのかというところが聞きたいですよ。

藤川委員。

○藤川委員 子ども議会、この中だったら一番取り組みやすいのかなと私も思っているんで  
すけれども、もし学校や子供に負担があるのだったら、学校に迷惑かけるのもいけないか  
なと思いつつながら。でも子供たち目線の議会や大竹市に対しての意見もちよと聞いてみた  
いし、本会議場での子供たちが一般質問をやっている姿も見たいなとも思います。それ  
に対して、行政の執行部が本当に真面目に真剣に答える姿も見たいなとも思います。これ  
は希望しているんですが、もし辞めた理由が学校側に迷惑をかけるからというんだったら、  
ちよとこれはと思います。

以上です。

○網谷委員長 日域委員。

○日域委員 例えば、時々校則の問題なんか世間をにぎわしたりしますが、今の藤川さ  
んの意見に反対する面もあるんですが、子供を呼んでくるのであれば学校のことをテーマ  
にすべきなんですよ。それで子供が変なことを言ったら、校長は困るわけですよ。それで

初めてそこで議論ががちんこするわけですからね。だから学校の問題点を議会で教育長に質問しましょうってやったら面白いですよ。私、大賛成です。

大竹だって民間人校長がいたんですよ。あの校長面白かったけど消えてしまいましたよね。だからそこは事なかれ主義か、でもやってみたら大竹の学校がすごくよくなるかもしれないよ。そういう意味では私、賛成です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

子ども議会の中でもいろいろなテーマの中で、またそれなりの意見があろうかと思えますので。

局長、子ども議会がそれからないというような理由みたいなものが。

局長。

○三上議会事務局長 市政施行の50周年記念事業でやったということで、40年から40、50、60周年で実施されていることのように。

○網谷委員長 60年にやったんかね。

○賀屋議長 あと2年で70年。

○網谷委員長 ということは、あと2年でまたやるのではないですか、それから行きますよね。

○日域委員 そこに議員が行くわけじゃないですからね。そこは子供と執行部ですよ。だから議会は入りませんよね。

○網谷委員長 入りませんが、傍聴席には行った覚えがあるんです。保護者も含めて傍聴席はいっぱいだったですよ。

そういうことで、次回までにはこの今、1つか2つ、絞りましょう。皆さん、考えとってください。もう何遍か協議する時間もありますので。

それでは日程2は、よろしいですかね。

3のそのほかはありますかね。

なければ、今日はこの辺で閉会とさせていただきます。

次回は報告会の後がよろしいかと思うんで、2月13日の週は、どんなですか。

13日の週、悪い日がありますか。それじゃあ、14日、火曜日、どうですかね。よろしいですか。2月14日の火曜日10時から、お願いします。よろしいですよ、皆さん。

それでは以上で、今日の議会改革特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

11時56分 閉会